

【カメラグランプリ 2007】

カメラグランプリ 2007 および カメラ記者クラブ特別賞

決定のお知らせ

本資料につきましては、

ウェブニュース等2007 年5 月17 日(木) 13:00 以降

新聞・雑誌および書籍2007 年5 月18 日(金)以降

お取り扱い願います。

カメラ記者クラブ

<http://www.cjpc.jp/>

カメラ記者クラブは「東京写真月間 2007」を応援しています。



カメラグランプリ 2007 実行委員会

【カメラグランプリ 2007】

「カメラグランプリ 2007」「カメラ記者クラブ特別賞」

決定のお知らせと贈呈式のご案内

カメラグランプリ 2007 は「**ペンタックス K10D**」（開発メーカー・ペンタックス株式会社）に決定いたしました。昨年度に引き続き、デジタル一眼レフカメラが6年連続での受賞となります。また、ペンタックスの受賞は1998年の「ペンタックス 645N」以来9年ぶり3回目となります。

カメラグランプリは、写真・カメラ雑誌のメカニズム担当記者の集まりであるカメラ記者クラブ（1963年9月発足、現在11誌11名が加盟）が主催し、カメラグランプリ実行委員会の運営のもと、毎年、一年間に日本国内で新発売されたスチルカメラの中からもっとも優れたカメラ機種を選び、表彰するものです。

選考委員は、カメラ記者クラブ会員をはじめ、記者クラブ加盟雑誌の編集長もしくは代表者、およびカメラグランプリ実行委員が委託した学識経験者、カメラメカニズムライター、写真家等で構成され、今年は総勢50名が選考にあたりました。また、選考対象となったカメラは、2006年4月1日から2007年3月31日までに新発売された159機種でした。

また、1990年より、大衆性、話題性、先進性に特に優れた製品と認められた場合にカメラグランプリの決定後、グランプリカメラを除くすべての製品を対象に、カメラ記者クラブ会員の合議によって選ぶ「カメラグランプリ・カメラ記者クラブ特別賞」を設けていますが、今回は「**ソニー 100**」（開発メーカー・株式会社ソニー）と「**Adobe Photoshop Lightroom**」（開発メーカー・アドビシステムズ株式会社）の受賞となりました。なお、ソフトウェアの受賞は今回が初となります。

カメラグランプリ 2007

『ペンタックス K10D』

選考理由

1020 万画素 CCD 搭載による高画質、幅広いレンズに対応するカメラ本体内部での手ブレ補正機能 SR (Shake Reduction = シェイクリダクション)、ゴミの写りこみを抑える DR (Dust Removal = ダストリムーバル)、さまざまな撮影条件でも安心して使える防塵、防滴構造の堅牢なボディ、さらに使用者の撮影意図に応える多彩かつ独自の露出モード、撮影機能を多数装備しながら、K10D は多くのユーザーが購入しやすいリーズナブルな価格を実現した。

特に手ブレ補正機能 SR (Shake Reduction) については、K マウント系レンズはもちろん、アダプターを介した M42 マウント時代のレンズに至るまで、装着した全レンズで約 2.5~4 段分の補正効果が得られる優れたもの。

また、ペンタックス独自となるハイパープログラム、ハイパーマニュアル、感度優先 (Sv) モード、シャッター速度&絞り優先 (TAv) モードといった独創的な撮影モードによって、ユーザーの撮影目的に的確に応えられるのも大きな魅力といえる。

さらに、

- 11 点測距、特に精度の要求される中央の 9 点をクロスセンサータイプとしたワイド AF システム。
- 高速、高画質処理を追求した新画像処理エンジン “PRIME” (プライム)
- 最大 22 ビット (420 万階調) 表現を可能にした高性能 AD 変換コンバーター採用。
- 拡張ブラケットによって、ホワイトバランスやシャープネス、彩度、コントラストの任意の条件を段階的にずらしながら撮影が可能。
- カメラ側面に JPEG または RAW で撮影中、ワンプッシュで JPEG と RAW の同時記録モードに切り換わる RAW ボタンを新設。
- 常用する撮影モードや ISO 感度、記録画質、露出補正など、各種の設定をあらかじめ登録しておける USER ポジション搭載。
- 自然な明るさとピントのつかみやすさを両立させたナチュラルブライトマット・フォーカシングスクリーンを採用した視野率 95% のクリアなファインダー。

といった多彩な機能、装備を備えている。

手ブレ補正機能をコアに、従来の膨大なレンズ資産を有効に活用できる懐の深さも備え、ユーザーサイドにたってデジタル写真の楽しみを大いに広げる優れたカメラシステムと判断、カメラグランプリ 2007 と決定した。

カメラ記者クラブ特別賞

『ソニー 100』

選考理由

“ソニーのデジタル一眼レフへの参入”の報は、一般の経済ニュースとしても大きな話題を振りまき、社会の関心をデジタル一眼レフ、デジタル写真へ向けることとなった。膨大な数量を誇るマウント交換レンズとシリーズのアクセサリなどの各種資産を継承したことがカメラファンからも大きな支持を得て、2006年度のデジタル一眼レフ市場の活性化に多大な役割を果たしている。

カメラ自体の性能も高く、

- 1020万画素の高性能CCDセンサーの採用。
- 装着レンズの制約のないCCDシフト式の手ブレ補正機能。
- CCD面のゴミ付着低減機能「アンチダスト」の搭載。
- 撮影シーンに応じて最適な露出と階調表現に自動補正する「Dレンジオートプロティマイザー機能」
- 入門者にも使いやすく、イメージに沿った写真が撮れる「シーンセレクション機能」
- 「画像仕上げ機能」、「ゾーン切り替え機能」による画像調整の効率化。
- フラッシュ、接写用品などの多彩なアクセサリを擁する充実したシステム。
- ロゴやボディの要所に“シナバー”(辰砂)のアクセント色を配しカラーリングやネーミングにおいても他ブランドとの差別化を図っている。

など、写真ファン、デジタル一眼レフファン、そしてファッションや流行に敏感な方にとっても大きな魅力といえる機能、性能を備えている。

さらに、カールツァイスレンズを含む各種新型交換レンズの積極的な投入、今後のシステムの方向性を示すプロトタイプの積極的な公表、撮像素子を中心とした電子部品の開発能力というバックボーンなども含め、一過性でないソニーのデジタル一眼レフにかける意気込みに期待し、カメラ記者クラブ特別賞として選考した。

カメラ記者クラブ特別賞

『Adobe Photoshop Lightroom』(アドビ フォトショッップ ライトルーム)

選考理由

プロ、アマチュアを問わず、デジタル画像編集のためのもっともスタンダードなソフトウェアとなっている『Adobe Photoshop』シリーズ。

『Photoshop CS』は『Creative Suite』の中核をなすプロフォトグラファー向けのソフトウェアとして、『Photoshop Elements』は画像編集だけでなく写真アニメーションの作成やWeb公開など、写真の楽しみを広げるアマチュア向けソフトウェアとして大きなシェアを誇ってきた。

デジタル一眼レフの本格的な普及期に入り、一般カメラファンでも多数のカットを撮影するようになり、画像の整理、調整の効率化が課題となっている。そのような折、登場した『Photoshop Lightroom』は、撮影後のデジタルフォト処理に必要な、整理、現像、調整、公開までの機能を搭載し、カメラファンの作業の効率化に寄与するツールである。

特徴として、

- 多数の写真画像に対し、高速な読み込み、整理が行える。
- 一般的なデジタルフォトのワークフローに合わせたモジュール構成の画面構成で、操作方法が直感的に理解しやすい。
- 140種類以上ものRAWフォーマットに対応、RAW現像を作業の中核として据えている。
- ホワイトバランス調整、露光量調整、トーンカーブ、レンズ収差、色かぶり補正などの画像調整機能が充実し、ゴミ取りも可能。
- プリントアウト、webへの公開、スライドショー作成など写真を公開する機能の充実。

それらを一連のワークフローの上で行え、効率的な作業が行えるようなアプリケーションとして製品化したことは、デジタルフォトの進歩に大きく寄与するものといえる。デジタル加工ツールとしての『Photoshop』シリーズ全体の功績も含め、カメラ記者クラブ特別賞として選考した。

【カメラグランプリ2007選考委員】 五十音順・敬称略

外部委託選考委員

赤城耕一、阿部秀之、飯田 鉄、大浦タケシ、落合憲弘、河田一規、木村恵一、
小林義明、斉藤勝則、諏訪光二、伊達淳一、田中希美男、中谷吉隆、中村文夫、
那和秀峻、西平英生、萩原史郎、藤井智弘、桃井一至、山田久美夫

(以上 20 名)

特別外部選考委員

石井鐵太、小島康壽、塩川安彦、志村 努、田沼武能、早川廣行、森山眞弓、山本 晃

(以上 8 名)

雑誌代表者

石川 薫、石田立雄、市川泰憲、奥田明久、加藤俊樹、河村民子、黒部一夫、坂本直樹、
高城有道、前田利昭、吉田 寛(以上 11 名)

主催：カメラ記者クラブ

運営：カメラグランプリ 2007 実行委員会

委員長 鳥居晋一 / 副委員長 秋山 薫

事務局長 佐々木秀人 / 事務局次長 石川孝宏

【カメラ記者クラブ登録メンバー】 五十音順・敬称略

2007 年 5 月現在

アサヒカメラ	朝日新聞社出版本部	西原龍弥
カメラ年鑑	日本カメラ社	石川孝宏
カメラマン	モーターマガジン社	井戸川博英
C A P A	学習研究社	北井保孝
コマーシャル・フォト	玄光社	荒井 努
四季の写真	学習研究社	鳥居晋一
写真工業	写真工業出版社	福島義光
日本カメラ	日本カメラ社	佐々木秀人
日本フォトコンテスト	日本写真企画	秋山 薫
フォト・テクニク	玄光社	柴田 誠
風景写真	風景写真出版	伊藤亮介



カメラグランプリ 2007 「ペンタックス K10D」



カメラ記者クラブ特別賞「ソニー 100」



カメラ記者クラブ特別賞
「Adobe Photoshop Lightroom」



カメラグランプリ 2007 ロゴ カメラ記者クラブ特別賞ロゴ
なおカメラグランプリ 2007 およびカメラ記者クラブ特別賞の画像・ロゴデ
ータは<http://www.cjpc.jp/>からダウンロードできます。

カメラグランプリ 2007 の実施要領、および選考規則

〔名称および目的〕

名称：カメラグランプリ 2007

目的：一年間に日本国内において新発売されたカメラの中から最も優れた一機種を選び、カメラグランプリの賞を贈るものである。この賞の設定により、カメラそのものをより一般に知らしめて、そのイメージを高め、カメラ産業の望ましい発展に協力するものである。これは特定のカメラメーカーや媒体の政策、利害等にかかわるものではない。

〔主催〕

- ・カメラグランプリ 2007 は、カメラ記者クラブが主催する。運営にあたる実行委員会をカメラ記者クラブ内におく。
- ・同委員会は、カメラ記者クラブ会員の互選によって委員長、副委員長、事務局長を決定し、これらの委員は運営、事務、会計などにあたる。役員の任期は一年とする。ただし、再任はさまたげない。
- ・運営費はカメラ記者クラブが負担する。

〔選考委員〕

- ・カメラグランプリ 2007 の選考委員は、実行委員会が委託した相当数の選考委員とカメラ記者クラブに加盟するカメラ雑誌の編集長、もしくはそれに代わる雑誌代表者、およびカメラ記者クラブ会員によって構成される。
- ・選考委員は新型カメラに接する機会が多く、すべてのカメラに対しユーザーの立場で公正かつ独自の評価ができるものでなければならない。
- ・選考委員については、毎年開催される実行委員会で一年ごとに選出する。
- ・選考委員の選出は、実行委員会の過半数の賛成を必要とする。
- ・選考委員は、無償とする。

〔選考対象〕

- ・2006年4月1日から、2007年3月31日までの一年間に、日本国内で新発売されたスチルカメラであること。

- ・新しい設計思想に基づいて製作され、その年度内に一般のユーザーが日本国内で購入できるカメラであること。

〔選考基準〕

- ・設計思想、デザイン、機能、操作性、安全性、基本的要素を総合的に評価する。

〔選考方法〕

- ・選考委員全員の投票により、最高得票をあげた一機種を選出する。
- ・選考委員は、独自に3機種を選び、選出理由を書いて、2007年4月5日までに実行委員会事務局あてに郵送する。
- ・投票は、得点制とする。投票を1位から3位までとし、順に配点を1位5点、2位3点、3位1点とする。なお同点の場合、上位選考の多い機種を優先とし決定する。
- ・投票は記名で行うが、投票の内容は公開しない。

〔カメラ記者クラブ特別賞〕

- ・大衆性、話題性、先進性などに特に優れた製品と認められた場合、カメラ記者クラブ特別賞を贈ることがある。
- ・グランプリ受賞カメラを除く、写真製品・機材を対象とする。
- ・選考は、カメラ記者クラブ会員の合議によって行う。

〔発表・贈呈〕

- ・6月1日の写真の日に発表を行う。
- ・賞に選ばれなかった他のカメラに順位はつけない。
- ・賞に選ばれたカメラメーカーは広告、宣伝、パブリシティ等に、その事実を使用する権利を有する。ただし、年次を含む賞の正確な表示をしなければならない。

〔補足〕

- ・以上の実施要項と選考規則について、運営上、著しい困難が生じた場合は、実行委員会を開催し、項目の改訂、または追加をする。

歴代カメラグランプリおよび特別賞受賞リスト

	カメラグランプリ	カメラ記者クラブ特別賞
1984年	第1回 ニコンFA 日本光学工業(株)	
1985年	第2回 ミノルタα-7000 ミノルタ(株)	
1986年	第3回 キヤノンT90 キヤノン(株)	
1987年	第4回 キヤノンEOS650 キヤノン(株)	
1988年	第5回 KYOCERA SAMURAI 京セラ(株)	
1989年	第6回 ニコンF4/F4S (株)ニコン	
1990年	第7回 キヤノンEOS10クォーツデート キヤノン(株)	第1回 コニカKANPAI コニカ(株)
1991年	第8回 コンタックスRTS 京セラ(株)	第2回 フジカルディアトラベルミニDUAL-P 富士写真フイルム(株)
1992年	第9回 ペンタックスZ-1クォーツデート 旭光学工業(株)	第3回 コニカHEXAR コニカ(株)
1993年	第10回 キヤノンEOS5 キヤノン(株)	第4回 ニコンSR5 (株)ニコン シグマ各種交換レンズ群およびSA-300 (株)シグマ
1994年	第11回 ミノルタα-707si ミノルタ(株)	第5回 オリンパスμズームパノラマ オリンパス光学工業(株)
1995年	第12回 コンタックスG1 京セラ(株)	第6回 リコーR1 (株)リコー
1996年	第13回 ミノルタTC-1 ミノルタ(株)	第7回 フジフイルムGA645プロフェッショナル 富士写真フイルム(株)
1997年	第14回 ニコンF5 (株)ニコン	第8回 キヤノンIXY キヤノン(株) コンタックスAX 京セラ(株)
1998年	第15回 ペンタックス645N 旭光学工業(株)	第9回 オリンパスCAMEDIA C-1400L オリンパス光学工業(株)
1999年	第16回 ミノルタα-9 ミノルタ(株)	第10回 ニコンCOOLPIX950 (株)ニコン タムロンAF28~300mmF3.5~6.3LD ASPHERICAL [IF] MACRO (株)タムロン
2000年	第17回 キヤノンEOS-1V キヤノン(株)	第11回 ニコンD1 (株)ニコン コニカHEXAR RF コニカ(株)
2001年	第18回 ミノルタα-7 ミノルタ(株)	第12回 プロニカRF645 (株)タムロン フジクロームプロビア100F/400F 富士写真フイルム(株)
2002年	第19回 キヤノンEOS-1D キヤノン(株)	第13回 ニコンFM3A (株)ニコン ミノルタDiIMAGE X ミノルタ(株)
2003年	第20回 キヤノンEOS-1Ds キヤノン(株)	第14回 フジフイルムGX645AFプロフェッショナル 富士写真光機(株) ハッセルブラッドH1 Victor Hasselblad AB ※シュリロレーディング(国内総代理店)
2004年	第21回 ニコンD70 (株)ニコン	第15回 キヤノンEOS Kiss Digital キヤノン(株) シグマ12~24mm F4.5~5.6 EX DG ASPHERICAL HSM (株)シグマ
2005年	第22回 コニカミノルタα-7DIGITAL コニカミノルタフォトイメージング(株)	第16回 ニコンF6 (株)ニコン エプソンR-D1 セイコーエプソン(株)
2006年	第23回 ニコンD200 (株)ニコン	第17回 リコーGR DIGITAL (株)リコー Zeiss Ikon (株)コンナ

※メーカー名は受賞当時のものです。また、カメラ記者クラブ特別賞は1990年から始まりました。